

滋賀県
垂直連携

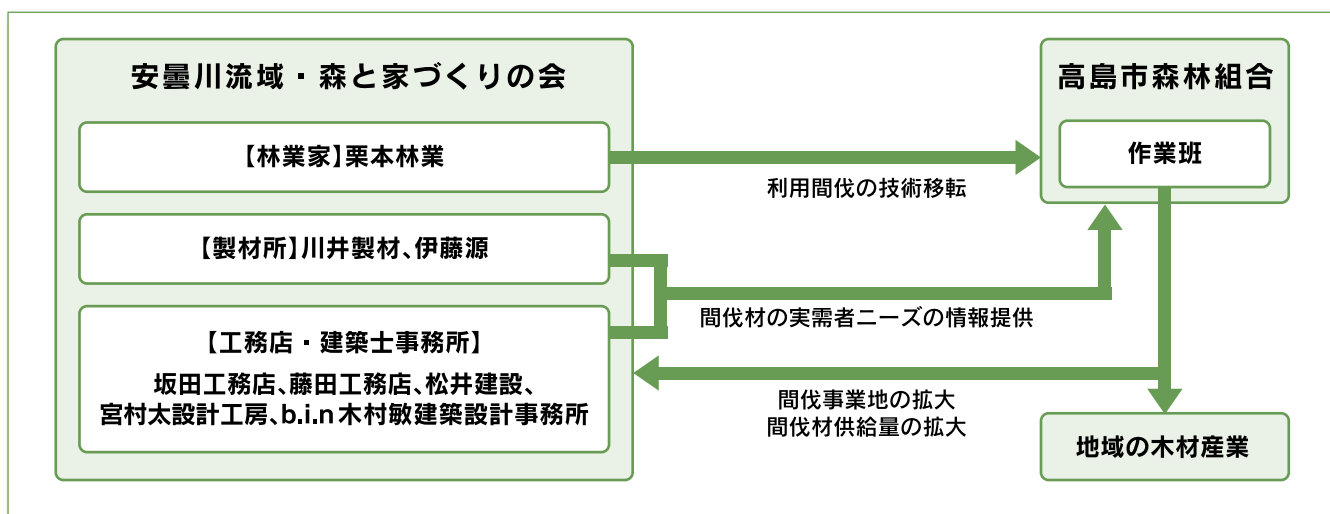
地域の林業・住宅産業関係者が連携して間伐実行体制を強化し、小規模林業地ならではの間伐材需給システムの構築を目指す

概要

安曇川流域・森と家づくりの会は、滋賀県内の林業家、工務店、建築士事務所等が連携し、地域産の木材を利用した住宅の普及に取り組んでいます。一般向けセミナー・ワークショップの開催や、家づくりのコーディネートを通じて、地域産木材への需要を掘り起こしてきました。このように間伐材への需要が高まる中で、滋賀県・湖西の安曇川流域の林業は、森林整備の体制やインフラが小規模なため、間伐の実行力を高めていくことが課題とされてきました。成熟し収穫期を迎えた森林が増えてきた現在、保育から利用への転換を図れるよう体制を整えていくことは、この地域だけでなく全国の多くの山村に共通した課題でもあります。



広域連携による森林整備体制



安曇川源流域の美しいスギ人工林



間伐材をふんだんに使ったモデルハウス



造材研修



モデルハウスでの木材ニーズ研修



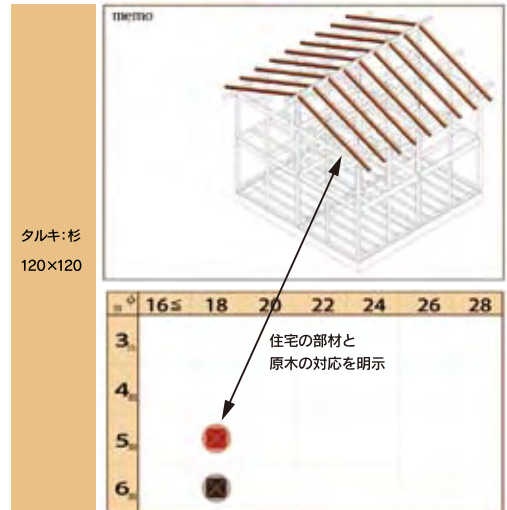
造材研修



取組の内容と成果

安曇川流域・森と家づくりの会では、同会メンバーの林業家もつ利用間伐の技術や、大工・建築士もつ住宅用部材のニーズ情報を地元森林組合作業班と共有することで、地域における森林整備の実行体制を強化しようとしています。具体的には、林業家と木に詳しい建築士とが共同で講師役を務め、間伐・造材の作業研修会や、木造住宅での木材利用実態を理解する研修会などを実施しています。

研修会は、地域の製材所・工務店等が求める寸法・品質を理解しながら伐採・搬出・造材の技術上のポイントを習得する機会となりました。また、研修会での議論をまとめる形で、よく使われる部材寸法や造材作業の着眼点・判断基準を整理したガイドライン(造材マニュアル)が整備されました。間伐・造材の作業が原木・製品の品質にどのように影響するかについて、関係者は共通理解を深めました。



地域の工務店においてよく使われる部材と、造材におけるポイントをまとめた、林業作業員向けマニュアル(一部)

今後に向けて

本事業での取組を地域に広げていくためには、森林整備に積極的な森林所有者を増やしていくことが求められています。次のステップとして、実際の木造住宅発注に対応して間伐材をそろえ、その結果の検証を重ねる取組が計画されています。実際木材需要と地域の森林から出る間伐材を結び付けていくことで、間伐材の利用結果を森林所有者にも分かりやすく伝え、森林整備への意欲を喚起しようとしています。また、間伐材に対する製材所・工務店の評価をフィードバックすることで、森林組合作業班の林業技術の蓄積を一層進めようとしています。

滋賀県湖西地域は、全国でも数少ない人口増加地域であり、地域産木材の需要の伸びが期待されています。間伐材供給体制を整えることで、小規模林業地ならではの木材流通システムを構築することを目指しています。

担当者のことば

comments

需要と供給を直接対話でつなげる



一般社団法人
安曇川流域・
森と家づくりの会
代表理事
宮村 太氏

本事業で森林組合作業班の方々を行った協働作業や研修により、互いの課題意識を共有することができました。また、森林所有者さんとの交流の中でも、少量でも山の木を無駄なく使うことが、生産者との信頼関係を高め、ひいては森林整備の意欲喚起につながることを実感しました。今後も、直接の対話を重ねながら、間伐材の供給と需要をつなげる取り組みを実行していくことで、本事業で生まれた連携体を継続、発展させていきたいと考えています。

林業技術を継承する機会の充実



高島市森林組合
作業班
松永 哲征氏

これまでは保育の仕事が多く、利用間伐の経験はわずかでした。本事業では、まとまった時間を取って利用間伐の研鑽をし、また木材利用の目線で考える作業を訓練し、多くの学びを得ました。特に、林業と建築の職域をまたいだ交流は、新たな発見の連続でした。森林作業のベテランが高齢化する中、技術の継承は、林業基盤が弱い山村ほど大きな課題です。今後も林業技術を高め、林業からこの朽木地域を盛り立てていきたいと考えています。